

東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
そして皆様の安全と一日も早い復興をお祈りいたします。

3月11日(金)の東日本大震災時、弊社では資料が散乱し、帰宅困難者が出たものの、設備などへの被害はなく、3月14日(月)より最大限の節電環境の中で営業を再開しました。

被害に遭われたお客様が復旧に向けて懸命に業務されている様子を、何かと心配している米 SL 本社へ伝えたときに届いたメッセージです：

“The Japanese workers are an inspiration to the rest of the world.”

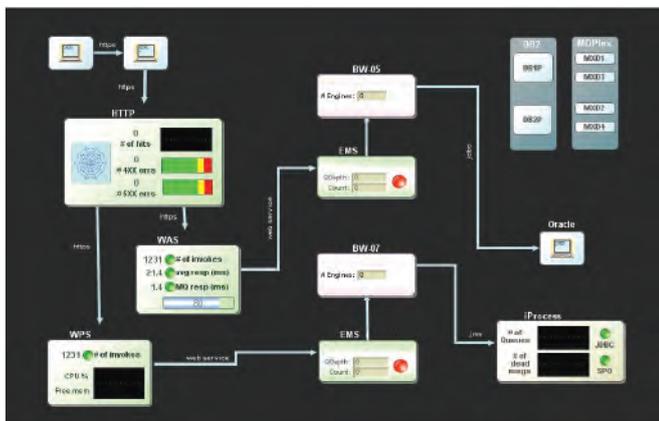
日本人ワーカーは世界にとってのインスピレーション

東京でも余震が続いた震災直後の電話会議中に「緊急地震警報(予報)」が出ると、そのシステムにもまた敬服していた SL 本社でした。社会インフラ構築を担うお客様が多い中、復興に向けて弊社ができることを、SL 本社とともに全力で尽くしてまいります。

クラウド・コンポーネントの世界における、アプリケーション指向モニタリング

SL 社プレジデント&CEO トム・ルビンスキ 著 2011年2月発行「白書」より

企業における重大なソフトウェア・アプリケーションが実際にどのような性能で稼働しているのかを把握することは、この10年の間にますます難しくなってきました。



複数のコンポーネントからの評価指標を表示するアプリケーション・データ・フロー

アプリケーション・サーバ、メッセージング・ミドルウェア、さらに最近ではインメモリ分散キャッシング・システムなどの共有サービス・コンポーネントによる「コンポーネント化とサービス指向アーキテクチャ」によって、アプリケーション開発は平易になりました。しかし、それに応ずるように複雑さ、アプリケーション環境内における依存の数が増え、重大なアプリケーションの健全性の状態監視を極めて煩雑にしています。

クラウド革命は IT コスト削減で大いに期待されていますが、初期においては新たな統合ポイントやインタフェースによって、アプリケーションの監視はさらに困難になります。今やアプリケーションをホストするサーバからミドルウェアは構成可能なコンポーネントであり、クラウドはこれをさらに促進するからです。短期的にはアプリケーション全体がクラウドになることはなく、一部はレガシー・システムに残るので、多くの新しい統合ポイントの監視が不可欠です。

ハードウェアやサービスなどのコンポーネントを共有するアプリケーションの健全性を可視化して管理するには、依存するコンポーネントの状態を網羅的にかつ統合的に監視し、個々のアプリケーションによる共有リソースの使用状況を見る必要があります。

クラウドで運用する場合、アプリケーション・サーバ名、ネットワーク・アドレスなどの情報はすべて構成データベースに含まれ、ベースとなるコンポーネントはすべて仮想化運用されているので、それに対する参照もすべてパラメータ化されています。さらに、サブシステムすべての運用はクラウドのプロビジョニングで自動化されるため、監視アプリケーションさえも自動的に構成・運用されます。

本白書では、コンポーネント・アーキテクチャをベースにする複雑なアプリケーションの監視に固有の課題を取り上げ、最終的にはクラウドそのものの性質によっていかに適切に監視できるかを、議論します。

本白書の和訳版はこちらからダウンロードできます：

http://www.sl-j.co.jp/products/resources/pdfs/1102_whitepaper_cloud.pdf



SL-GMS Developer for .NET モデルをメモリ上にキャッシング

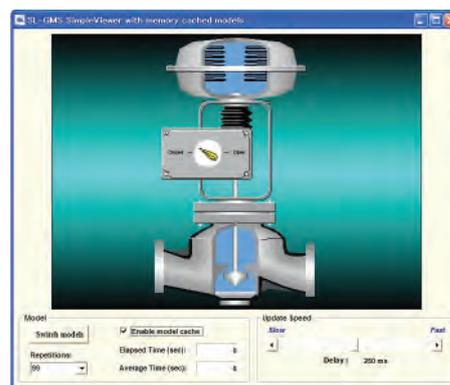
Microsoft .NET をベースにした監視制御システムのダイナミック GUI とシステム固有のカスタム・エディタの組み込み再販で実績を誇る SL-GMS Developer for .NET では、高速な画面切り替えが要求される場合に、メモリ・キャッシュを使用できます。SL-GMS Developer for .NET では、モデルをメモリ上にキャッシュしておくために必要な機能とそのサンプル・プログラムである「SimpleViewer_cache」を提供しています。

サンプル・プログラムでは、頻繁にモデルを切り替えるアプリケーションで、モデルのキャッシュを作成する方法を具体的に示します。SL-GMS が実行しているビューワーがモデルをキャッシュに探しにいき、キャッシュ内になければ、ファイルから読み込むといった使い方をします。そして、キャッシュ領域の取得とそこからのモデルの出し入れの管理は、アプリケーションで設定します。

モデルをメモリ上に置いておくことができれば、ファイルのアクセスに比べ、より高速にモデルを取り出すことができるので、使用頻度が高く、大きなモデルの場合には効果があります。

技術資料はこちらからダウンロードできます：

http://www.sl-j.co.jp/products/resources/pdfs/0909_technicalpaper_dotnet_memory.pdf



製品で提供されている SimpleViewer_cache サンプル

SL 社が非同期、リアルタイム、多次元データ用に、RTView の最先端キャッシュ技術を発表

インメモリから履歴データベースヘデータを透過的に行き来して SQL クエリが不要に

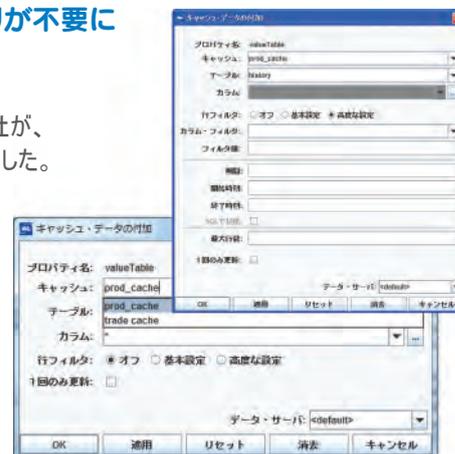
日本時間 2011 年 2 月 9 日 発表・リリースより：

SL ジャパンは、リアルタイム・データの可視化と監視ソフトウェアの提供でリードする米国 SL 社が、同社の RTView プラットフォームのデータ管理・分析機能に大きな強化を行ったことを発表しました。

これらのうち最も重要なものは、新しい「データベース読み込み」機能で、これは（高速なリアルタイム・アラート生成に使用する）インメモリ上の短期保持データとデータベースに入った長期保持の履歴データを透過的に融合するものです。RTView のユーザは、高速な対策アラートの演算ならびにシステム健全性状態の視覚化に使うのと同じデータ・モデルを参照しながら、週と週の対比、あるいはそれに類似したトレンド解析を、SQL クエリを1つも書かず画面で行うことができます。

本プレス・リリース全文（詳細）：

http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2011/slj_press_110209.shtml



イベント・レポート

- 3月1日、ロイヤルパークホテル(東京・日本橋)で開催された G-MAC 主催の「第12回日本国際金融システムフォーラム2011」に出展された東芝ソリューション株式会社様が、SL 社の RTView と Sybase CEP を使ったアルゴリズム・トレーディング・ソリューションを紹介されました。
イベント・サイト：www.gmac.jp/jp/forum/20110301_jibsis_12th/index.html
- 3月4日、SL ジャパンは大手町サンケイプラザで開催されたサイバース株式会社主催の金融エグゼクティブ・サミット「Sybase Financial Executive Summit 2011: 変わり始めた国内証券市場の執行戦略 — 影響が増すアルゴリズム取引の今後について」にスポンサー出展いたしました。
イベント・サイト：www.sybase.jp/detail?id=1091337
- 4月5日、SL 社は米サンタクララで開催された Progress Software 社のユーザ会で、「Building Dashboards for Apama and Monitoring Progress RPM (Apama のダッシュボード構築と Progress RPM の監視)」について、講演しました。
イベントについて：<http://www.sl.com/pdfs/ProgressUsersGroup.pdf>
- 4月7日、SL 社は米ボストンで開催された WSTA - Wall Street Technology Association 主催の「Financial Services Infrastructure Management (金融サービスにおけるインフラ監視)」セミナーで、「Reducing Outages and Degradations With Proactive Application Performance Monitoring (プロアクティブな APM によるシステム停止と性能低下の削減)」について、講演しました。
講演資料(PPT)はこちらからダウンロードできます：http://www.sl.com/pdfs/WSTA_SL.pdf

Real-Time Visibility

年3回発行 2011年5月20日発行 通巻39号



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。